

道徳科学習指導案

三次市立みらさか小学校
指導者 小原 智穂

1 日 時 平成 29 年 12 月 7 日 (木) 第 5 校時

2 学 年 第 6 学年 23 名 (男子 9 名 女子 14 名)

3 場 所 第 6 学年教室

4 主題名 互いを思いやる心【内容項目 B 親切, 思いやり】

5 ねらい 同じ夢を持っていたこと以外に深い関わりがなかった自分のために資金援助を続けたジョルジュ爺さんの思いやりに応える決意をしたロベール的心情を考えることを通して、自分の利益を考えず相手の立場に立つことの大切さ、相手を思いやることに喜びを感じるものの大切さに気付き、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしていこうとする道徳的心情を養う。

6 教材名 「最後のおくり物」 【私たちの道徳 小学校五・六年 (文部科学省)】

7 主題設定の理由

- 「思いやり」には二つの内容が含まれている。まず、「思い」とは自分自身の思いである。相手の立場やその時の状況を「あの時、自分もそうだった。」と過去の経験や相手はどう思っているのかを想像する。その時、自分の心を尽くして見極めることである。もう一つは、思いやりの「やり」である。「自分もこうだったから相手もそうだろうな。」「自分だったらこう思うから相手もそう思うだろう。」と自分の心を押し広げて考える。つまりは、自分の思いを相手に送ることである。思いやりは、自分の心を尽くさず相手のことをただ思うだけでは、本当に相手の痛みや苦しみは分らないのである。相手の立場を「わが身を振り返って思いやる」時に、親切な行為や思いやりの行為が実現する。相手の置かれている立場や状況と一致し、適切な手を差し伸べることは、無私、無報酬の思いを根源に発動するものであり、よく知っている相手だからなどという特定の人のみに対してだけのものではない。

高学年の時期は、自他を客観的に捉えることができるようになっていく。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。指導にあたっては、特に相手の立場に立つことを要求されており、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかを考えた言動が求められている。さらに、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれに伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことの大切さが求められている。

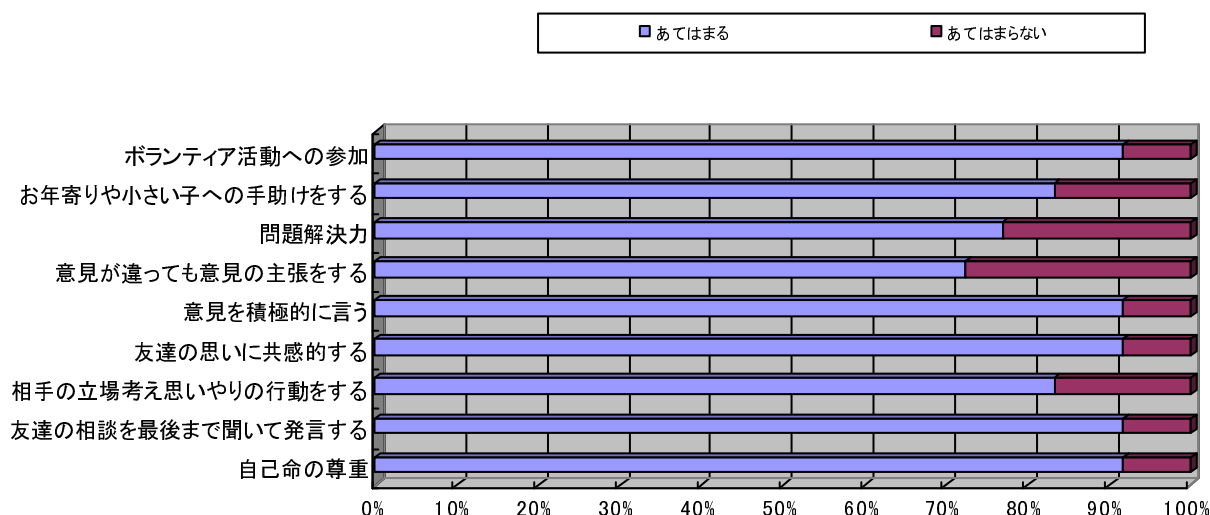
児童が誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしていこうとする道徳的心情を養うことの重要性から、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、困っている児童に声をかけたり手助けをしたりすることの大切さは理解している。しかし、自己表現が苦手な児童も多く、思いやりの思いを持ちながらも、行動に移せない児童もいる。

事前アンケートの結果から、生命尊重の意識は大変高いことが分かる。問題解決のために設定された話合いの場で、進んで意見を言える児童は 91.7%だが、意見が違う場合に自分の主張ができる児童は 87.5%とやや低くなる。また、友達の相談を最後まで聞き発言する児童は 91.7%であり、友達の思いに共感的に表現できる児童も 91.7%である。しかし、「相手の立場にたって思いやりの行動をしているか。」という問いに対しては、83.3%と下がり、自分の行動が相手の立場に立

っているのか自信がない児童もいる。社会参画では、91.7%の児童がボランティアや地域の行事に参加しているが、お年寄りや小さい子に進んで手助けをする児童が83.3%と少なく、具体的に行動できていない傾向がある。

《事前アンケートの結果》（実施対象23人）



- 本教材は、有名な劇団「アルベル」の俳優をめざす貧しい青年ロベージュのために、門番のジョルジュ爺さんが俳優の養成所に通うための資金を陰ながら支えていく話である。ジョルジュ爺さんは、自分の名前を明かすことなく資金援助をしていたが、体をこわしロベージュの家の前で倒れてしまう。その時、初めて自分を支えてくれていた人がジョルジュ爺さんであることに気付いたロベージュは、「自分が息子である。」と言い、ジョルジュ爺さんの最期を看取る。ジョルジュ爺さんからの最後の手紙を読み、これからの自分の生き方を見据え、決意をする話である。ロベージュは、自分を支えてくれるジョルジュ爺さんの思いやりに時に甘え、自己本位な考えに陥る人間的な弱さも併せ持つ。その思いを反省し、ジョルジュ爺さんの思いやりの深さに自分の生き方を考え、決意を新たにすロベージュ。二人が互いを思いやる心情や行動から思いやりとは何かを深く考えさせられる教材である。

指導にあたり、導入では、本時の課題を社会問題から考えさせたい。社会科との関連で考えた交通機関に設置されている「ゆずりあいの席」について振り返らせ、「ゆずりあいの席には、どんな気持ちが必要なのか。」という問題意識をもたせたい。

授業展開前段では、ロベージュの夢について確認し、なぜ、有名な劇団「アルベル」の俳優となりたいのかを考えさせ、俳優として有名になり活躍したいと思うロベージュの思いを押さえたい。基本発問では、とまどいながら受け取っていた資金なのに届かなくなると、思わず唇をかむロベージュの自己中心的な思いを考えさせ、人間の弱さや自分本位な考え方に気付かせ、人間理解につなげると共に、人としての弱さを共感的に捉えさせたい。中心発問に関わる基本発問では、ジョルジュ爺さんは、なぜ自分の名前を名乗らず資金援助をしたのか考えさせ、相手の立場に立った無欲の行動であったこと、相手に向ける思いやりは自分の喜びや幸せにつながっていたことに気付かせていきたい。また、ロベージュが「自分が息子です。」と答えた思いについて考え、ジョルジュ爺さんに対する深い感謝と思いやりに応えた思いを感じ取らせたい。

中心発問は、二段階で考えさせたい。まず、基本発問で考えたジョルジュ爺さんの心情を手掛かりにロベージュが受け取った最後の贈り物とは何かを考えさせ、次にジョルジュ爺さんから受け取った最後の贈り物に応えた生き方をするための決意をするロベージュの心情を考えさせたい。

価値を深める過程として、まず、児童に自分の考えと向き合わせるために道徳ノートに自分の考え（『自己の思いを見つめ考える』過程）を記述させる。その後、班の形態をとり、班の中で各々

の考えを交流し広げさせたい。話し合いでは、考えを深めていくために、意見の相違点から新たな疑問を持たせ、どうしてそう思ったのか、どういう意味なのか、グループで考えを深めさせ、深めた考えを学級全体で深め広げさせていきたい。（『他者の考えに問いを深める』過程）

また、児童の考えを支援するために、考えを分類して板書し、どのような言葉でまとめるか児童と考え合うことで、価値を深めていきたい。

さらに、話し合いをもとに深まった親切、思いやりの価値を自分の生き方につなげて考え、思いやりの大切さや誰に対しても思いやりの心をもって親切に行動していくことの大切さ、その思いが自分の喜びにもつながるということを、これからの生活にも生かして行動していきたいという身構えを、未来へのヒントとして記述させたい。（『未来へのヒント』自分の生き方につなげる過程）そして、導入で提示した問題について再考させ、大切なのは「ゆずりあいの席」ではなく、席をゆずる優しさの根源は、誰に対しても相手の立場を思いやる、思いやりの心であることに気付かせ、問題解決を図りたい。

終末では、道徳学習プログラム（レインボープログラム）との関連を生かし、児童が体験的に学習した沖江田楽を振り返り、価値の一般化を図りたい。

8 指導のポイント

（１）小中9年間の発達段階における【親切、思いやり】のとらえ ※中学校（思いやり、感謝）

段階	学習指導要領（ねらい）	ポイント	児童生徒の言葉
低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	身近な人 温かい心 親切	お年寄りや年下の子、身の回りの人にどのようにしてあげるといいかな。
中学年	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	思いやる 進んで親切	困っている人がいたら助けたいと思う心。 悲しんでいる人がいたら、気遣おうとする心。 喜んでいる人がいたら、うれしく思う心。 たくさんの人に思いやりの心を広げよう。
高学年	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	誰に対しても思いやりの心をもつ。 相手の立場に立った親切	どうすれば相手のためになるのかを考えてみる。 相手の気持ちと自分の気持ちを重ねてみよう。
中学生	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやりの心 感謝 感謝に応える 人間愛の精神を深める。	強さも弱さももち合わせた人間が、互いに認め合い尊重し合う。 「思いやりの心」によって支えられている。 他者の思いやりに触れ、感謝の思いを抱き、支えられていることに気付く。 自分も誰かを支えたいと思う。

（２）主体的に学び合う授業づくりについて

○導入の工夫（★１問題意識をもたせるための工夫）

- ・社会科「わたしたちの生活と政治」の学習と関連させて、「ゆずりあいの席」について考えさせたことを想起させ、「ゆずりあい席に必要なのは、どんな気持ちなのか。」という問題意識をもたせる。

○中心発問へのアプローチ

- ・「ロベータが受け取った最後の贈り物とは何だったのでしょうか。そして、その贈り物を受け取ったロベータは、どんな決意をしたのでしょうか。」と問うことで、最後の手紙にも込められていたジョルジュ爺さんの思いやりに気付かせ、思いやりの心は、ロベータにどのような生き方を決意させたのかを考え

させ、思いやりの心を込めた側と込められた側、両者の思いを考えさせる。

○自分の生活へとつなげる工夫

- ・学習発表会で伝統芸能「沖江田楽」を演じる前に、田楽の指導者と児童で組んだ円陣で、代表の児童が「思いやりの心を込めた沖江田楽をしよう。」と言った言葉に、一人一人が思いこめ、成功という大きな成果につながり、自分たちの自信となり、これからの生き方の道しるべとなったことを想起させたい。

(3) 協働的に学び合う授業づくりについて (★2 対話の工夫)

- ・中心発問で自分の考えを道徳ノートに記述させた後に、班で考えの交流をさせると共に、友達の考えに「問い」をもたせたり話し合わせたりしながら、道徳的価値を深めさせると共に深い学びにつながる「問い」を学級全体で考えさせていく。

9 評価

(1) 授業評価のためのルーブリック

Hop	Step	Jump
同じ夢を持っていたということ以外深い関わりがなかった自分のために資金援助を続けたジョルジュ爺さんの思いやりに応える決意をしたロベヌの心情を考えさせることができる授業であった。	自分の利益を考えず相手の立場に立ち、また、相手を思いやることに喜びを感じることの大切さに気付くことができる授業であった。	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしていこうとする道徳的心情を持つことができる授業であった。

(2) 自己評価のためのルーブリック

レベル1	レベル2	レベル3
【 】について、考えることができた。	【 】についての自分の考えを、他者に伝えることができた。	【 】についての考えを、友達の考えとの相違点をもとに、深めたり広げたりすることができた。

※【 】内には、本時の学習で学べた価値(キーワード)について、児童自身が自己評価し記入する。

期待する児童の記述(キーワード)

[誰に対しても 思いやり 相手の立場に立つ 自分の得(利益)を求めない 思いやりに応える]

思いをつないで「今」を生きる

中心となる学習活動：学習発表会「沖江田楽」（総合的な学習の時間）

A 自己有用感を育てる

【ねらい】

一人一人の個性の大切さに気付くと共に自分の個性や友達の個性を尊重する。

道徳の時間

「世界に一つだけの花」
（歌詞 自作教材）

A 個性の伸長

「世界に一つだけの花を咲かせるためだけにがんばればいい」という意味を考えるを通して、一人一人の個性を生かしたり、伸ばしたり、また見つけていく大切さに気付き、仲間との関わりあいの中で、自分だけの個性を輝かせること、また友達の個性を尊重していこうとする道徳的心情を養う。

関連

音楽交流会

B コミュニケーション力を育む

【ねらい】

互いを信頼し、学び合い、協力して、沖江田楽を成功させていこうとする。

道徳の時間

「泣いた赤鬼」
（日本標準）

B 友情・信頼

人間と仲良くしたいという赤鬼の思いを叶えようと行動し、旅に出た青鬼、青鬼の提案を受け入れ人間と仲良くなりながら、青鬼の手紙を読み涙する赤鬼両者の友達への思いを考えるを通して、友情とは互いに相手の立場を思いやりながら育てていくものであることに気付き、友達と信頼し学び合いながら友情を深め、人間関係を築いていこうとする道徳的实践意欲と態度を養う。

C 所属感を育てる

【ねらい】

伝統を受け継ぐ自分の役割を自覚し、よりよい校風につなげてこうとする。

道徳の時間

「せんばいの心を受け継いで」
（日本標準）

C よりよい学校生活集団生活の充実

菊作りの伝統を受け継ぐことの意味を考えるを通して、伝統を受け継ぐことの大切さに気付き、みんなで協力してよりよい学校をつくっていこうとすると共に、自分の役割を自覚して集団生活の充実を努めようとする道徳的心情を養う。

関連

「最後のおくり物」
文部科学省
B 思いやり、感謝

特別活動 命のつながりを考える

道徳の時間D 生命尊重「涙とつなぐ」(東京書籍)
命の重さや命につながるたぐひの思いを知り、精一杯に生きようとする意欲を持たせる。

道徳の時間D 生命尊重「その思いを受けついで」(私たちの道徳 小学校五・六年 文部科学省)

5月

10月～12月

2月

○ 期待する意識の流れ

頑張る力を支えるものを考えよう。⇒思いをつなぐことは、「今」を未来へつなぐこと
⇒ 互いを信頼し、学び合い、友と歩もう

11 準備物 教材文、道徳ノート、教材補助短冊、発問短冊、写真

12 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問) 工夫★1 問題意識をもたせるための工夫 ★2 対話の工夫★3 価値の再定義	指導上の留意点 (◆評価の観点)
導入	1 「ゆずりあいの席」について考える。	○「ゆずりあいの席」には、どんな気持ちが必要なのでしょう。★1	○ 社会科の関連を生かして、社会問題から「思いやり」について問題意識をもたせる。★1
展開	2 「最後のおくり物」を聞いて話し合う。 ① 有名な劇団「アルベル」の俳優を目指し養成所の練習を見るロベータの思いを考える。 ② 贈り物が届かなくなり、唇をかみしめるロベータの気持ちを考える。 ③ 贈り主がジョルジュ爺さんと気づき、自分が息子だと言ったロベータの気持ちを考える。 ④ 最後の贈り物について考え、ロベータがした決意について考える。 【かんがえよう】 【問いをさがそう】	○「最後のおくり物」を聞き、話し合ひましょう。 ○ 養成所の練習を見ているロベータは、なぜ有名な劇団「アルベル」の俳優になりたいのでしょうか。 ・有名な「アルベル」の俳優になりたい。 ・どんな練習をしているんだろう。 ・養成所で学びたいが、お金がない。 ・どんなこともメモして学んでやる。 ○ 贈り物が届かなくなり、唇をかみしめるロベータはどんな気持ちだったでしょう ・お金が届かなくなれば続けられなくなる。 ・これまで送ってくれていたのにどうしてなんだ。 ・悔しい。あと少しなのに。 ・これまでのようにお金を送って欲しい。 ○ 贈り主がジョルジュ爺さんだと気づき、自分が息子だといったロベータはどんな気持ちだったでしょう。 ・まさかジョルジュ爺さんだったなんて。 ・どうして私にお金をくれたんだろう。 ・なぜ黙っていたんだ。 ・自分のために体を壊すなんて申し訳ない。 ・自分は何て自分勝手だったんだ。 ・ジョルジュ爺さんありがとう。 ・今度は自分がジョルジュ爺さんのためにできることをしよう。 ◎ ロベータが受け取った最後の贈り物とは何だったのでしょうか。そして、その贈り物を受け取ったロベータは、どんな決意をしたのでしょうか。 補) ジョルジュ爺さんはなぜ黙って贈り物をし続けたことが幸せだったのだろう。 ・相手の負担になりたくない。 ・相手が喜んでくれればそれでいい。 ・相手のためになることは幸せだった。 ・誰かの役に立つと思うと嬉しかっただけ。 自分の夢 ・自分はジョルジュ爺さんの思いに応え、りっぱな俳優になろう。 ・劇団「アルベル」の俳優じゃなくてもいい。時間が経ってもジョルジュ爺さんの思いに応えられる俳優になるんだ。 人として ・ジョルジュ爺さんのように思いやりのある人になろう。 ・今度は自分が誰かの力になれるような人になりたい。 ・自分は一人で頑張ってきたと思ってきたが、誰	○ 有名な劇団に入りたいと思うロベータの思いを考えさせる。 ○ 自分の夢に向かうために努力し続けるロベータのひたむきな思いに共感させ、ジョルジュ爺さんが応援したいと思った気持ちに共感させる。 ○ 始めに贈り物が届いた時の気持ちも振り返らせ、届かなくなった時のくやしさに共感させる。 ○ 自分本位な考えになっているロベータの気持ちを共感的にとらえさせ、人間の弱さを理解させる。(人間理解) ○ ジョルジュ爺さんの思いに対する感謝の思いの深さについて考えさせる。 ○ ジョルジュ爺さんの思いを考えさせ、最後の贈り物について段階考えさせた後、その贈り物がロベータに何を決意させたかを考えさせる。 ○ 道徳ノートに記述させることで自分の考えに向き合わせる。 ○ 記述した考えを基にグループ・ワークや学級で交流し、意見の相違点やより高い価値に気付かせる。★2 ○ 交流した考えを分類して板書し、児童の言葉でまとめさせたり、問いから広げたりして「思いやり」を児童の言葉でとらえさせる。

		かに支えられていたんだ。自分も誰かを支えられる人間になろう。	
	3 自分の生活を振り返る(内省化) ⑤「ゆずりあいの席」について考える。 ⑥自分の生き方へつながるヒントを見つけよう。 【みらいへのヒント】	○「ゆずりあいの席」には、どんな気持ちが必要なのでしょう。 ・席をゆずろうとする思い。 ・一人一人が思いやりの心をもつこと。 ○話し合い考えたことから、自分の未来へのヒントを考えよう。	○思いやりについて考えたことをもとに問題解決をさせる。 ★3 ◆誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしていこうとする道徳的心情をもつことができています。(評価方法:道徳ノートへの記述内容)
終末	4 学習発表会を想起させる。 ⑥振り返りをする。	○沖江田楽を始める前の円陣の言葉にこめた思いを思い起こそう。 ○ループリック評価をしよう。	○道徳学習プログラム(レインボープログラム)との関連を図り、沖江田楽の前にかけた掛け声(思いやりの心でやりきろう)をかけ、最高の沖江田楽が演じきれたことを思い起こさせる。

14 板書計画

「ゆずりあいの席」には、どんな気持ちが必要なのでしょう。

最後のいきり物

ロベータ
アルベルの俳優

唇をかむロベータ

ジョルジュいさん

・まさかジョルジュ爺さんだったなんて。
・どうして私にお金をくれたんだろう。
・なぜ黙っていたんだ。
・自分のために体を壊すなんて申し訳ない。
・自分は何て自分勝手だったんだ。
・ジョルジュ爺さんありがとう。
・今度は自分がジョルジュ爺さんのためにできることをしよう。

ジョルジュ爺さんを看病するロベータ

・自分の夢
・自分はジョルジュ爺さんの思いに応え、りっぱな俳優になろう。
・劇団「アルベル」の俳優じゃなくてもいい。時間がかかってもジョルジュ爺さんの思いに応えられる俳優になるんだ。
・人として
・ジョルジュ爺さんのように思いやりのある人になろう。
・今度は自分が誰かの力になれるような人になりたい。
・自分は一人で頑張ってきたが、誰かに支えられていたんだ。自分も誰かを支えられる人間になろう。

・どんな練習をしているんだろう。
・養成所で学びたいが、お金がない。
・どんなこともメモして学んでやる。

・相手の負担になりたくない。
・相手が喜んでくれればそれでいい。
・相手のためになることは幸せだった。
・誰かの役に立つと思うと嬉しかっただけ。

教材場面		登場人物の行為、心情		主人公の心情（ロベールヌ）		児童の意識の流れ		心情の流れ	
○俳優を目指すロベールヌ	中心人物（ロベールヌ）	その他の人物（ジョルジュ）等	主人公の心情（ロベールヌ）	児童の意識の流れ	心情の流れ				
	○贈り物を受け取るロベールヌ								
○俳優を目指すロベールヌ	ロベールヌの夢は、有名な劇団「アルベル」の俳優になることだった。地方から一人出てきたロベールヌには、養成所に通う余裕はなく、自分なりの練習を重ねていた。ある日の夜、養成所がどのような練習をしているのか知ろうと、窓越しに中をのぞいてみた。あまりの練習の厳しさと熱心さにおどろき、思わず立ちすくんでしまった。それから、度々、窓の下で熱心にメモをとるロベールヌだった。	「きつとあなたに期待をかけている人なんだろうね。このお金は今、借りていると思えばいいじゃないか。無駄にしないように頑張ることだね。」 「あつそうそう、私は今度昼間の勤めに変わることになったので、しばらく会えないけれどくじけちゃだめだよ。」 と言ってやさしく微笑みかけた。	「有名な「アルベル」の俳優になりたい。 どんな練習をしているんだろう。 養成所で学びたいが、お金がない。 どんなこともメモして学んでやる。」	○俳優になることが夢なんだな。 ○有名な劇団に入りたいのはどうしてなんだろう。 ○俳優になって売りたいんだろうな。 ○お金がなくて悔しいだろう。 ○小さな努力を積み重ねていてすごい。 ○よく頑張っている。					
	三か月ほどたった日の朝、ロベールヌはアパートのドアの下に小さな紙の包みを見つけた。中には養成所の月謝代に使ってください。という手紙と共に、何枚かのお札が入っていた。自分にこんなことをしてくれる人が思いつかなかった。翌月もその次の月も贈り物は届いた。 「お金をそのまま受け取ってもよいのでしょうか。誰が送ってくれるのか探したんですが分らないのです。」 思い余ってジョルジュ爺さんに相談した。	「難しい状態です。だいぶん衰弱してますから。とにかく、誰か付き添いが必要です。」 「体を壊していたのに、また無理をして働き始めたからだろうね。困ったなあ。この爺さんには身寄りがないんだ。」 付き添いとなれば仕事を休まなければならない。 しかし、体は日に日に弱っていった。三日目の夜ジョルジュ爺さんは、かすかに微笑み小さな声で語り掛けた。 「迷惑をかけることになって悪かったね。息子だと言ってくれたんだね。」 「ちつとも苦しくなんかなかったよ。幸せを感じたぐらいさ。」							
○贈り物を受け取るロベールヌ	養成所に通い始めたロベールヌは、一生懸命練習に取り組んだ。日に日に実力を身に付け、先生や仲間から次第に認められるようになってきた。いつそう練習に力が入った。 ところが、しばらくして突然贈り物が届かなくなった。次の月もやはり贈り物は届かなかった。 「せつかくここまで来たのに…。」 ロベールヌは思わず唇をかむのだった。	「驚いただろうな。 ○どうして黙っていたんだろう。 ○体を壊すまでお金を送り続けた理由は何だろう。 ○自分と同じ夢を持っていたから応援したんだ。 ○夢が同じだけでそこまでするかな。 ○ジョルジュ爺さんはどうして幸せと言えたのだろう。 ○ロベールヌが自分が息子だと言ったのはなぜだろう。 ○看病をすれば養成所にも通えないし、夢が遠ざかるのに。」							
	ロベールヌは外へ飛び出した。抱きかかえて自分の部屋に連れていき、ベッドに寝かせると急いで近くの病院に向かった。玄関のわきには見慣れた紙の包みがあった。	「ジョルジュ爺さんは立ち去ろうとしたが、その様子がおかしい。と思って居る間もなく雪の中に倒れこんだ。」 駆け寄ってみるとジョルジュ爺さんは苦しそうに息をしている。ひどい熱だ。							
○贈り主に気付くロベールヌ	「そんなことより僕のために苦しむことに…。」 「僕が付き添います。息子なんです。」 それから付きつ切りで眠り続けるジョルジュ爺さんの看病をした。	「遅れていたお金を入れておきます。もうすぐ、劇団の新人募集の試験がありますね。心よりあなたの努力が実ることを願っています。あなたの初舞台を一日も早くみられることを心待ちにしています。」							
	どこまでも気遣ってくれるジョルジュ爺さんの言葉に肩を震わせた。 「ほくおじいさんに謝らなければ、お金が届かなくなった時僕は恨みました。本当に愚かでした。どんなに苦しんでいるか知らないで。許してください。でもどうして見ず知らずの僕のために。」 その夜、ロベールヌはおじいさんからの最期の手紙を読んだ。	「私は俳優になりましたかった。君の姿を見ていて。ありがとう。頑張るんだよ。」 ジョルジュ爺さんは、そういうとロベールヌの手をとったまま、また眠りについた。それからしばらくして静かに息を引き取った。							
○最後の贈り物を受け取るロベールヌ	「お金そのまま受け取ってもよいのでしょうか。誰が送ってくれるのか探したんですが分らないのです。」 思い余ってジョルジュ爺さんに相談した。	「自分はジョルジュ爺さんの思いに応えなければならぬ。 ・劇団「アルベル」の俳優じゃなくてもいい。ジョルジュ爺さんに恥じないような俳優になろう。 ・養成所に通わなくても、時間がかかってでもジョルジュ爺さんの思いに込えられる俳優になるんだ。 ・ジョルジュ爺さんのような思いやりのある人になろう。 ・こんどは自分が誰かの力になろう。」							
	「お金そのまま受け取ってもよいのでしょうか。誰が送ってくれるのか探したんですが分らないのです。」 思い余ってジョルジュ爺さんに相談した。	「自分はジョルジュ爺さんの思いに込められた紙の包みを見つけた。中には養成所の月謝代に使ってほしい。という手紙と共に、何枚かのお札が入っていた。自分にこんなことをしてくれる人が思いつかない。翌月もその次の月も贈り物は届いた。」							

ジョルジュ

ロベールヌ